



流通 BMS 普及説明会 I 特集

流通システム標準普及推進協議会 会報（流通 BMS ニュース No.5）をお届け致します。
 2009年10月～12月、流通 BMS 普及説明会を全国主要5都市で開催し、総数317名の参加を頂きました。本会報では、流通 BMS 普及説明会を特集し、情報提供致します。
 開催地区ごとの開催日、参加人数は、次の通りです。

- ・ 札幌地区（10月23日、54名）
- ・ 名古屋地区（11月6日、133名）
- ・ 大阪地区（11月20日、51名）
- ・ 広島地区（11月27日、34名）
- ・ 福岡地区（12月4日、45名）

普及説明会では、「流通 BMS 最新動向と今後の普及に向けて」「中堅・中小企業の導入企業の事例」に加え、支援会員15社（各地区3社）から「流通 BMS 導入のポイント」について実務経験に基づく具体的な説明を実施しました。

流通 BMS 協議会 HP で、普及説明会で使用した説明資料を公開しています。参照願います。

（一部、事例紹介企業のご事情により、公開を控えさせていただいています。）

流通 BMS 普及説明会のプログラムは、以下の通りです。

プログラム

| | 流通BMS最新動向と今後の普及に向けて | 中堅・中小企業の導入事例 | 流通BMS導入のポイント | | |
|-----|---------------------|-------------------------|----------------|-------------------|--------------------|
| 札幌 | イオンアイビス(株) | よつ葉乳業(株) | ウルシステムズ(株) | (株)データ・アプリケーション | (株)HBA |
| 名古屋 | ユニー(株) | (株)種青 | (株)リテイルサイエンス | (株)日立製作所 | エヌアイシー・インフォトレード(株) |
| 大阪 | イズミヤ(株) | 生活協同組合連合会 コープきんき事業連合 | ユーザックシステム(株) | (株)ワイ・ディ・シー | (株)NEC情報システムズ |
| 広島 | (株)平和堂 | (株)ハローズ | (株)富士通中部システムズ | (株)インテック | (株)サンレックス |
| 福岡 | (株)ダイエー | (株)サンライフ (株)西鉄ストア | 富士通エフ・アイ・ピー(株) | キヤノンITソリューションズ(株) | グローバルサイン(株) |

本会報で、スーパー業界代表者による「流通 BMS 最新動向と今後の普及に向けて」と流通 BMS 導入企業による「中堅・中小企業の導入事例（札幌、名古屋）」をご報告いたします。次会報で、「中堅・中小企業の導入事例（大阪、広島、福岡）」をご報告致します。

また、昨年の流通 BMS フォーラム&ソリューション EXPO（11月11日（水）東京都港区のベルサール六本木で開催）のアンケート集計結果について、情報提供致します。

流通BMS最新動向と今後の普及に向けて ～スーパー業界の取り組み～

講演者

- ・札幌会場：イオンアイビス(株) ビジネスサービス本部 本部長 宮崎巖氏
- ・名古屋会場：ユニー(株) 業務本部 システム物流部 執行役員 部長 角田吉隆氏
- ・大阪会場：イズミヤ(株) 情報技術部 部長 上山善弘氏
- ・広島会場：(株)平和堂 情報管理部 部長 中島勝氏
- ・福岡会場：(株)ダイエー システム物流本部 副本部長 村崎克己氏



ひとこと

- ・流通BMSは業務プロセスも標準化！
- ・Ver1.3で普及が更に促進される！

I. 流通BMS策定の狙いと検討概要

JCA 手順は、1980 年台初頭に日本チェーンストア協会（JCA）が、統一納品伝票を元に標準化したものである。既に策定から 4 半世紀が過ぎ、消費者へ提供する新しい情報を提供するための新しい手段が必要であり、機能的な限界を迎えていた。情報交換はもはや競争領域ではなく協調領域であるとの認識のもと、小売の実務担当者(当初 12 社)が集まり標準化の作業を進めた。あるべき論ではなく現行業務を担保することに重点を置き、ビジネスモデルを確立した。業務プロセスをきちんと整理した上でデータの使い方を決めた。

- ・2005 年度：JCA 手順の課題を踏まえた標準仕様検討 ⇒ 流通 BMS Ver.0.5 作成
- ・2006 年度：流通BMSの実装 ⇒ 流通 BMS Ver1.0 公開
- ・2007 年度：流通BMSの商材拡大（アパレル、生鮮） ⇒ 流通 BMS Ver.1.1 公開
- ・2008 年度：流通BMSの精度向上、メッセージ拡大 ⇒ 流通 BMS Ver.1.2 公開
- ・2009 年度：流通BMSの精度向上、メッセージ拡大（生鮮統合） ⇒ 流通 BMS Ver.1.3 公開

II. 5 年間に渡る検討内容

これまでは小売が中心となって討議してきたが、生鮮及び物流(預り在庫)に関しては、卸が中心となって討議を進めた。

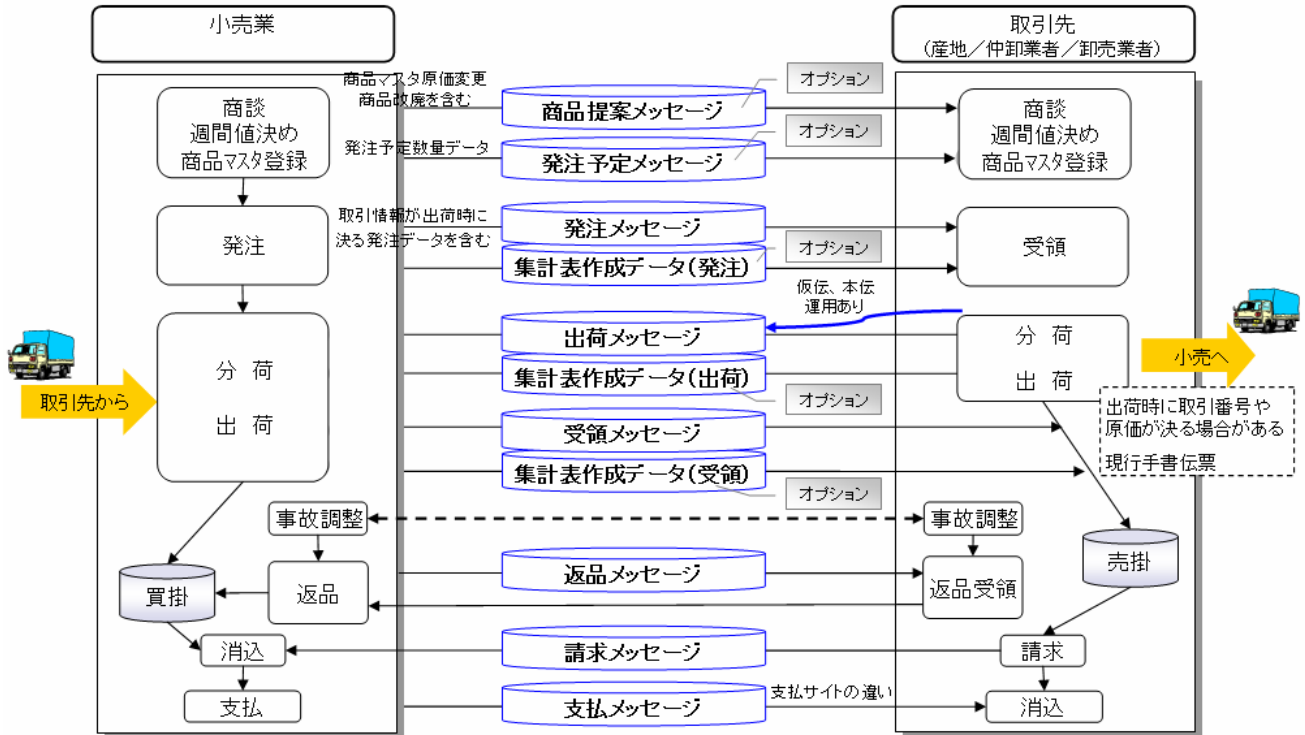
1. 生鮮項目の追加概要と目的

・基本形メッセージと生鮮メッセージの2つのメッセージが存在していることで、グロサリー等の商材と生鮮商材を取扱っている企業は、2つのメッセージに対応する必要がありシステム上の負荷が生じている。小売も卸も、1つのメッセージで全ての商材に対応できることを切望していた。従って基本形メッセージに生鮮項目を統合することで、**流通 BMS の普及が更に促進される**と考えている。

基本形メッセージへの生鮮項目の追加(35 項目を追加)

- 1) 不定貫取引項目(区分と単位、重量等)
- 2) 生鮮取引の特徴(出荷時に商品、原価 e t c が決まるまたは変わる)のための項目
- 3) 商品属性項目(原産エリア、等級、銘柄、商品状態区分等)

生鮮カテゴリで特殊な商・物流モデルを踏まえて整理した、2009年度は生鮮追加項目も基本形に追加した形に統合するのでメッセージは集約された。



－ 生鮮業界で利用するメッセージ －

2. 物流センター対応の特殊与件

1) 預り在庫型センター型

預り在庫型センターと卸・メーカー間における業務プロセスを対象。

①在庫補充勧告メッセージ ②入庫予定メッセージ ③入庫確定メッセージ ④在庫報告メッセージの4つのメッセージをセンター／卸・メーカー間の「入庫に関わるプロセス」、「在庫報告に関わるプロセス」、「不良在庫の引取に関わるプロセス」の3つの業務プロセスに適用。

2) 物流ラベル標準化

流通BMSの普及に合わせて物流ラベルの検討も進めた方が、より具体的に検討を進める事ができる。また、物流ラベルに関する標準化が進めないと、流通BMS普及の足かせになりかねないため物流ラベルに関する標準化の検討を並行して実施。物流ラベル(SCMラベル)及びその付帯帳票に関して標準化し、**バーコード情報・ラベル印字項目他6項目を発注、出荷メッセージに追加**(2008年度)した。

3. 中小企業への普及(Web型BMSの制定)

Web-EDIに関しては、簡単に導入出来るというメリットがある反面、フォーマットが統一されていない、入力の手間がかかる等の問題点がある。これらの問題点を持つWeb-EDIの拡大を抑止するために、Web型BMSを制定した。(スーパー業界にて検討)

〈Web型BMSサービス提供条件〉

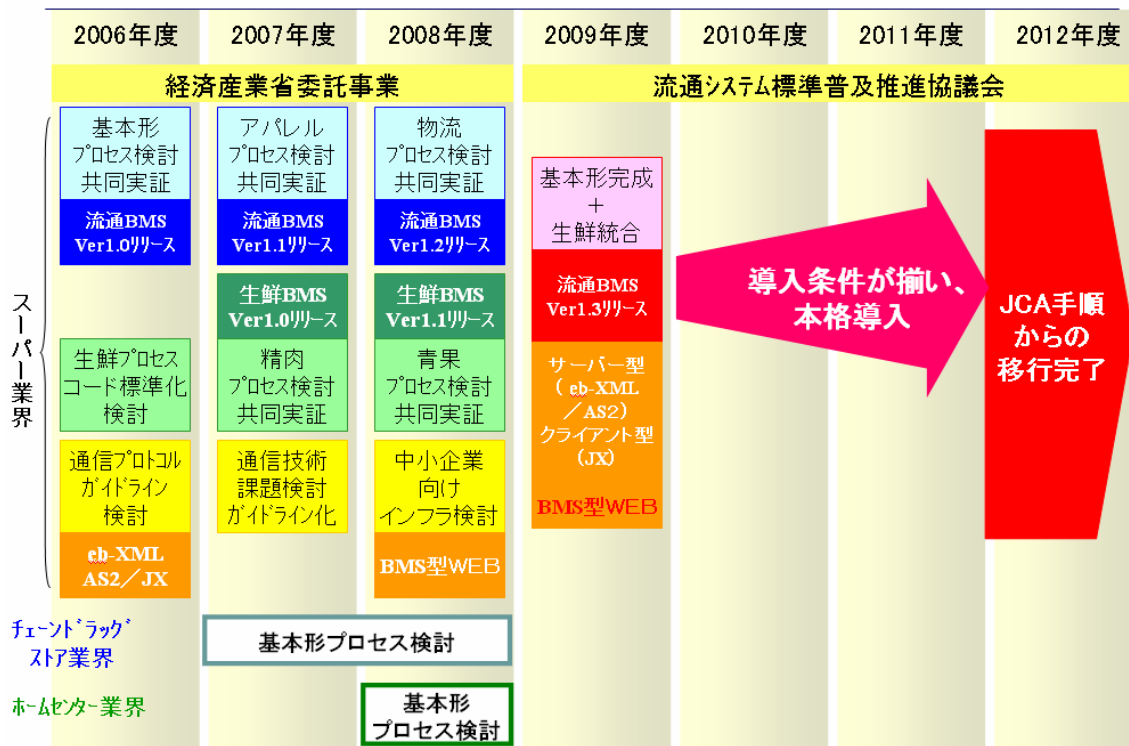
- ①流通BMSの「Web-EDI基準」を満たしていること。
- ②流通BMSの他の手順(ebXML、AS2、JX手順)もサポートすること。
(相手先に応じて必要な手順)

Ⅲ. まとめ

流通BMSは、プロトコルとデータ項目に加えて業務プロセスの標準化が特徴です。標準化を正しく理解し、活用すれば必ずメリットが出る。 Ver 1.3 は、スーパー業界として3年間かけて取り組んできた流通BMSの集大成であり、1つのメッセージで卸、小売が全ての商材に対応できるようになった。Ver1.3のリリースを契機に、流通BMSの導入条件は揃ったと考える。小売だけではなく卸もメリットがあるので、相互の合意の元で今後3年間を目標に切り替えを推進していきたい。その為にも、導入費用の低減が重要でありSIベンダーの皆様には安価なパッケージの提供をお願いしたい。また、標準を維持していくためには正しい理解でいかに標準を遵守していくかが重要である。そして今後、ますます普及推進活動が重要となってくる。皆様のご協力をお願いしたい。

流通システム標準化ロードマップ

拡大情報システムWGより



札幌会場 中堅・中小企業の導入事例 よつ葉乳業(株)における流通BMS導入事例

企業概要

- ・設立：1967年1月23日
- ・事業内容：牛乳の処理・加工、乳製品の製造および販売、果汁飲料その他関連食品の製造および販売
- ・従業員数：628名（2009年3月31日現在）
- ・売上高：952億円（2008年度）

講演者：よつ葉乳業(株) 財務部情報センター 課長 関崎 佳行 氏



関崎佳行氏

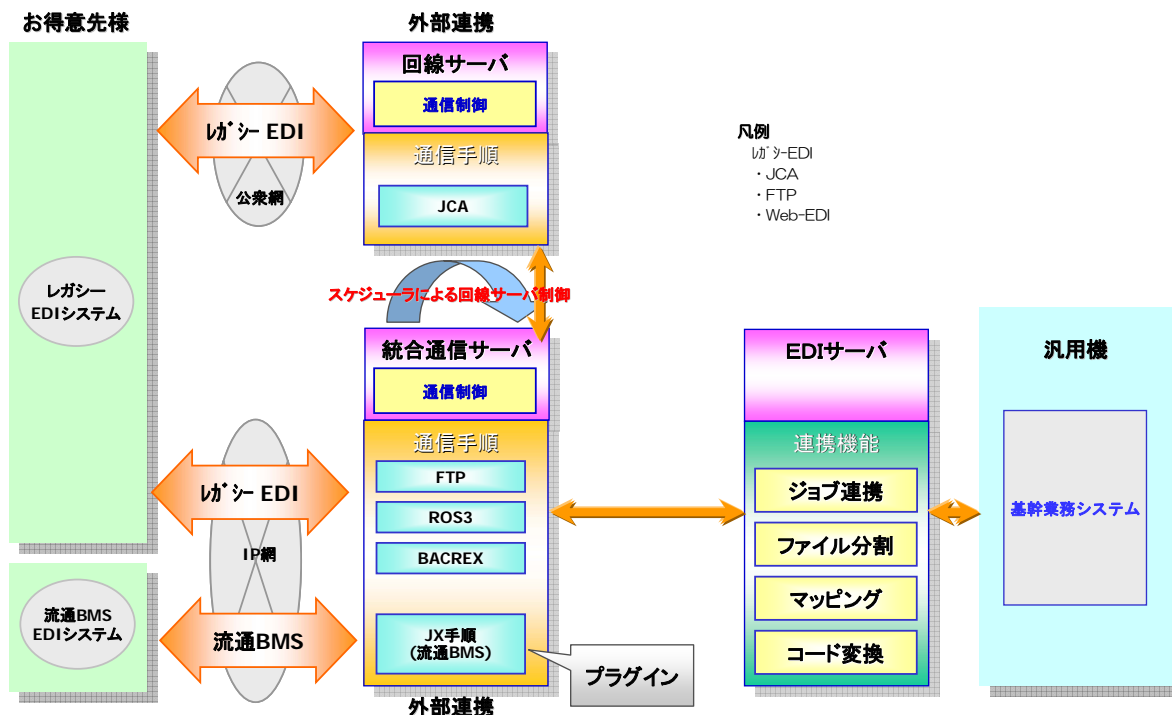
ひとこと

- ・レガシーシステムから新EDIシステム基盤への移行に合わせて導入
- ・システムベンダーに頼らない仕組みの採用によりランニングコストを低減
- ・検品・出荷作業の前倒し着手、取引先ごとの流通BMS対応工数の半減などの導入効果を実現
- ・一層の普及促進に向けて、官民を挙げた導入の「きっかけ」作りなどにも期待

当社は、牛乳・乳製品の製造および販売を目的として1967年に設立された。現在の生乳生産量は、全国の約10%、北海道の約20%を占めるに至っている。当社はまた、日本で初めて、ワンウェイ方式（紙パック）により成分無調整牛乳の提供を行った乳業メーカーでもある。

1. 流通BMS導入の背景

07年より得意先から流通BMSによる取引依頼が増加してきたため、当社としても流通BMSの研究を進めていた。特に今後、安全・安心に求められる情報量の増加が予想される中、社会的責任を果たすためにも流通BMSは必要不可欠な仕組みであると判断した。期を同じくして、汎用機で稼働していたレガシーのEDIシステムの信頼性や拡張性が限界となったため、流通BMS導入も想定しつつ、08年にサーバベースの新EDIシステム基盤の整備を進めた。



新EDIシステム基盤の概要

II. 導入までの経緯

流通BMS導入にあたっては、システムベンダーに頼ることなく、自社で容易に追加設定が可能な仕組みの採用により、ランニングコストの低減を図ることを目標とした。導入時期が早かったこともあり、仕様面で不明確な部分も多々あったが、取引先ITベンダーと一体となって理解に努めたことで、必要な機能を絞り込みながら導入することができた。

導入システムとしては、当社がWebサーバを所有しておらず、また業務的に日配の乳製品は、リードタイムの関係から日に1回の定時タイミングによるデータ交換で十分だったことから、最終的にクライアントJX手順方式を選択した。

09年10月23日現在、流通BMSは4社と実稼働中であり、近日中にさらに3社追加の予定である。

III. 導入効果

流通BMSの導入効果として、データ量の多い得意先では受注の通信時間が30分から3分へ約1/10に短縮されたことで、検品・出荷作業が前倒しで着手できる様になった効果が大きい。通信コストも、従来の従量制から定額制へ変更されたことで削減が可能となった。またシステム構築作業面では、従来は得意先ごとのシステム設定に早くても半月から約1ヶ月位要していたものが、現在では半月位で完了することが可能になっている。

今後さらに、伝票レスが本格的に推進されていくことで、伝票（用紙）代に加えて、印刷や発行などに係わる事務費用の大幅な削減が見込まれる。

IV. 普及に向けた課題

まだ200社以上の取引先とJCA手順でやりとりしている当社にとって、流通BMSの普及拡大が不可欠であり、そのためには以下の様な課題があると考えている。

- ・着実な普及に向けた、より明確なメッセージやロードマップ
- ・商品マスタ運用と対になった普及促進
- ・小売、卸、メーカーが一体となった普及

さらに流通BMS導入推進のために、官民を挙げた「きっかけ」作りも必要であろう。「きっかけ」の一例としては、例えば税制面での優遇措置などが考えられるのではないだろうか。

この他にも、流通BMSは標準化された仕組みだけでなく、SaaSの様なサービスを安価に利用できることも普及にとって大きなカギとなると考える。

V. 今後の展開予定

今後の本格普及に向けて、特に得意先からの要請に迅速に対応できる体制作りに加えて、利用促進策として、流通BMSの積極的な選択や各種啓発活動への参加などを進めていきたい。

名古屋会場 中堅・中小企業の導入事例 (株)種清における流通BMS導入事例

企業概要

- ・創 業 : 明治43年11月(1910年)
- ・事業内容 : 国内外の菓子卸売り・商品開発
- ・従業員数 : 248名 (2009年3月現在)
- ・売上高 : 671億円 (2009年3月実績)

講演者: (株)種清 情報管理部 情報システム室 課長 永井博之 氏

ひとこと

- ・小売業には、システム切替においてWeb-EDI導入決定前に、是非、流通BMSの導入検討を
- ・卸売業には、小売業から流通BMS導入要請には、積極的な対応を
- ・ITベンダーには、Web-EDIが多様化しないよう、流通BMSを前面に提案を



永井博之氏

I. 流通BMS導入の経緯と狙い

情報志向型卸売業研究会(卸研)に参加し、会員企業とともに、流通BMSの勉強を重ねたことが背景にあり、本当にためになった。

流通BMSの導入目的は、取引先の物流変更に伴い、受注から納品までのリードタイムの短縮を図ることである。JCA手順から流通BMSへの移行性を確認するために、早期対応を目的に2008年6月に導入した。

導入したシステムは、パッケージ導入によるサーバ型システムである。サーバ型システムを選択した理由は、以下の通りである。

- ① EDIの自動化対応(PUSH型によるリアルタイム処理)
- ② データ量への対応(大容量データ交換への対応)
- ③ システムの安全性(サーバ型モデルの安全性を評価)
- ④ 将来の拡張性対応(接続取引先の増加を想定)

流通BMS導入の狙いは、運用面・システム面の両面がある。運用面からは、発注データ受信の大幅な時間短縮により出荷時間を前倒しすることと、標準化システム導入によるEDI業務・物流業務の効率化推進である。システム面からは、実際に実施してみないと分からないことが多いので拡大が予想される流通BMSに早めに対応しノウハウを蓄積することと、標準化システムを導入し将来的に個別対応を無くし開発工数を削減することである。

II. 流通BMS導入の状況

流通BMS導入検討段階に、社内から標準化メッセージについて、以下のような疑問が噴出した。

- ① 従来のJCA手順のフォーマットとの関連付けが分からない、何故こんなに桁が長いのか？
- ② こんなに多くの項目を基幹システムに取り込む必要はあるのか？
- ③ オープン系の仕組みで禁則文字等入ってくる事はないのか？
- ④ 全角項目に半角文字が混在する事はないのか？

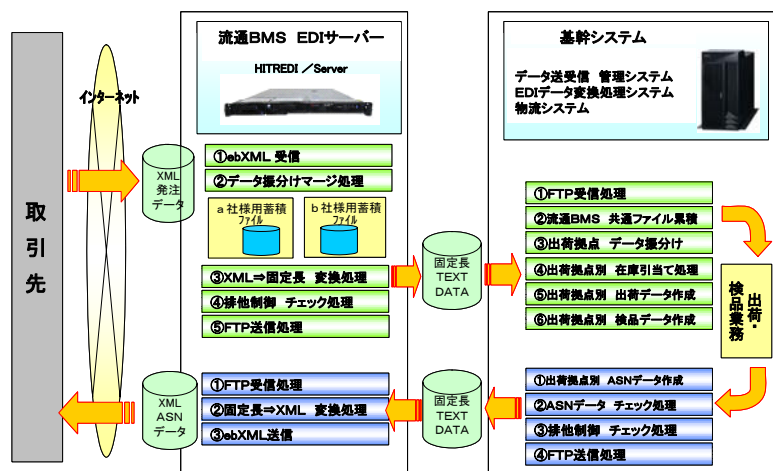
このため、社内ではガイドラインの理解から始めた。メッセージの構造、各項目の意味付けを理解するために、社内での流通BMS勉強会を実施し、セミナーにも参加した。ITベンダーの協力を頂き、システム運用、EDIサーバに関する疑問点を解消した。システム担当者は、項目数の増大と桁数の増大に不安をもっていた。現行のJCA手順の項目と流通BMSの項目を比較するマッピングシートが、システム担当者の不安解消に大きな効果をもたらした。

流通BMSのシステム構築までの期間は、検討期間(約2カ月)+設計・開発期間(約4カ月)

+テスト・移行期間（約 2.5 カ月）の約 7 ヶ月間である。期間内に基幹システムの改修を約 3 カ月で実施した。

システム構成は、流通 BMS EDI サーバを導入し、基幹システムと連携させている。

EDI サーバは、取引先からインターネット経由で XML データ（発注データ）を受信し、変換処理を行い、固定長形式で基幹システムに送信する。基幹システムは、受信データから出荷・検品業務を実施し、結果を固定長形式で EDI サーバに送信する。EDI サーバは XML 形式に変換し、取引先にインターネット経由で XML データ（ASN データ）を送信する。



III. 流通 BMS 導入による効果

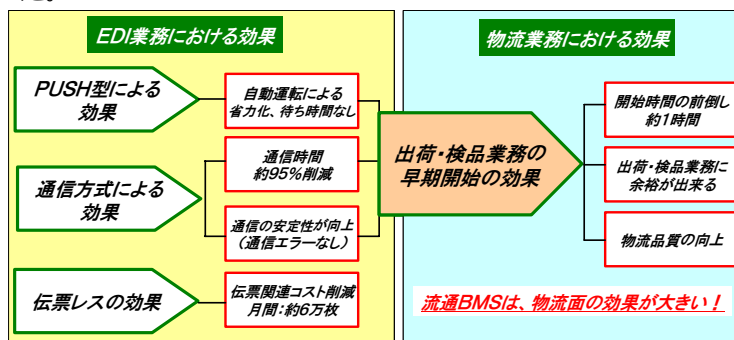
流通 BMS 導入による効果は、EDI・物流業務における効果とシステム開発での効果がある。

EDI・物流業務における効果には、①通信時間②EDI・物流業務効果③伝票レス の3点がある。

① 通信時間：発注データ受信時間は、従来 30 分～40 分が約 2 分となり、ASN データ送信時間は、従来 15 分～20 分が約 1 分となった。また、JCA 手順での接続エラーが流通 BMS では発生せず、回線の安定度が高くなった。

② EDI・物流業務効果：出荷・検品業務の開始が早められ、作業に余裕が生まれた。また、取引先への ASN データの送信を早めることができた。

③ 伝票レス：月間 60,000 枚の伝票レス効果がある。
 ・伝票代、保管コストが削減。
 ・伝票の使用、廃棄量を削減し、環境対策になっている。



システム開発において、以下の①～③の効果実績（一部想定効果）がある。

- ① EDI システム開発工数削減：初期導入に約 6 カ月要したが、2 社目以降は標準化メッセージにより、初期導入時の 1/3 の約 2 カ月を想定。
- ② 物流ラベル導入による開発工数削減：流通 BMS 対応物流ラベル導入により開発工数を削減
- ③ Version UP 対応時の開発工数削減：約 15 日で Version UP 対応実施 (Ver 1.1 → Ver 1.2)

IV. まとめ

流通 BMS 導入におけるポイントは、標準化メッセージのメリットを活かし、個社対応とならない共有システムの基盤をつくり、サポート力のある IT ベンダーを選択することである。また、弊社の今後の課題として、障害発生時の短時間で復旧対策がある。

流通 BMS 普及拡大のためには、小売業には、システム切替えにおいて Web-EDI の導入決定前に、是非流通 BMS の導入を検討していただきたい。また、卸売業には、小売業から流通 BMS 導入の要請を受けた場合には積極的な対応をお願いする。IT ベンダーには、Web-EDI が多様化しないよう流通 BMS を前面に提案をしていただきたい。

コーヒープレイク ～「よくあるご質問 (FAQ)」～



Q：IT ベンダーです。流通 BMS の提案を担当のお客様に行きます。流通 BMS 協議会 HP の資料を利用して、お客様に資料配布・説明を行います。資料の活用を行ってよろしいでしょうか？

A：流通 BMS 協議会 HP の資料を、どんどん活用してください。ただし、資料に流通 BMS 協議会発行であることを明記してください。また、どの資料を活用したのか？事務局まで連絡してください。出所：流通 BMS 協議会の表示を忘れないでネ！

出所：流通 BMS 協議会
の表記を忘れないでネ！！

Q：お取引先から、基本形 Ver.1.2 を使用するよう依頼されました。基本形 Ver.1.3 を使用してもかまいませんか？

A：Ver.1.2 に存在しない項目（Ver.1.3 で追加された項目）を使用しない限り、問題ありません。利用する機能範囲を、[相対企業で確認してくださいネ！](#)

Q：流通 BMS 運用ガイドラインをダウンロードしました。英語版の資料を探しましたが、見つかりませんでした。英語版の資料はありますか？

A：運用ガイドラインだけでなく、流通 BMS 関連ドキュメントには、[英語版を準備しておりません。](#)

Q：XML スキーマパックを活用して、自社で開発した場合、自社製品に XML スキーマパックを同封して購入者に販売できますか？

A：自社製品に XML スキーマを添付し、出荷することは差し控えてください。ご利用して頂くユーザー企業様から、利用登録をお願い致します。利用登録は、事務局で利用状況を把握し、XML に問題があった場合、迅速にご連絡を行うことを目的としています。

[利用登録を必ず行ってくださいネ！](#)

XML スキーマパックの利用登録
を必ず行ってくださいネ！！

流通 BMS 普及説明会アンケート集計結果

2009年10月～12月、全国主要5都市で開催

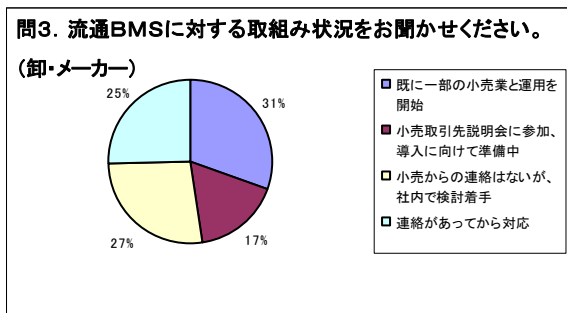
- ・来場者総数 317名
- ・アンケート回収総数 235名（回収率74%）

■普及説明会アンケート内容

| | |
|---|--|
| 問1. 本セミナーご参加の目的は何ですか？ 問2. 流通BMSに対する取り組み状況をお聞かせください。 （小売） 問3. 流通BMSに対する取り組み状況をお聞かせください。 （卸・メーカー） | 問4. 流通BMSに対する取り組み状況をお聞かせください。（IT関連企業） 問5. 受講者内訳 |
|---|--|

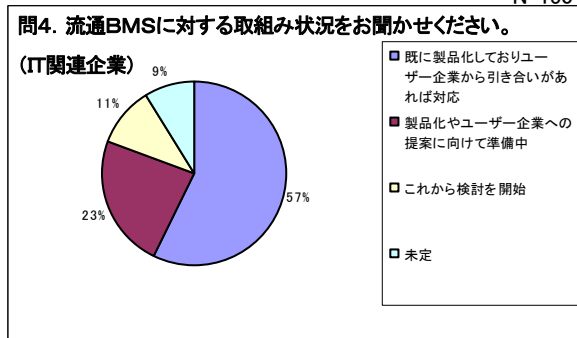
- ・問3 卸・メーカーアンケート 流通BMSの導入検討を開始済み：75%
 （運用開始済み含む）

N=59



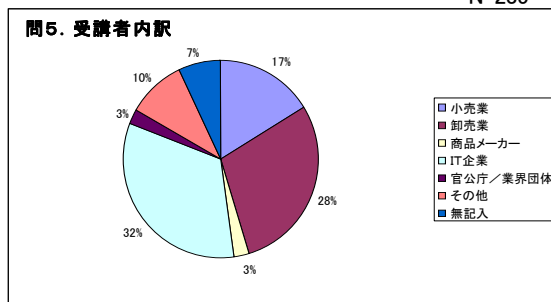
- ・問4 IT関連企業アンケート 製品化済み・製品化準備中：80%

N=150



- ・問5 参加者内訳 ユーザー企業（小売業、卸・メーカー）：48%、IT企業・団体他：52%

N=235



【事務局より】

- ・本アンケート集計結果を、流通BMS協議会HPで公開いたします。

流通 BMS フォーラム&ソリューション EXPO アンケート集計結果

2009年11月11日、ベルサール六本木で開催した流通 BMS フォーラム&ソリューション EXPO のアンケート結果(抜粋版)を報告します。

【流通 BMS ソリューション EXPO 来場者アンケート】

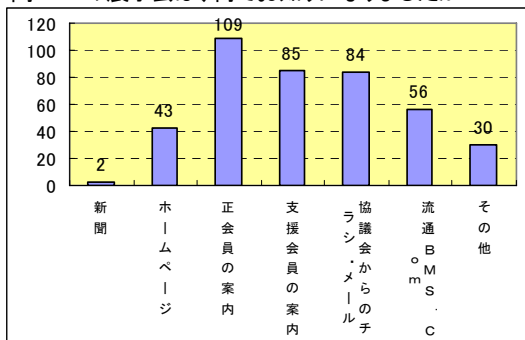
- ・来場者総数 600名
- ・アンケート回収総数 384枚 (回収率 64%)

■来場者向けアンケート内容

| | |
|---------------------------|-----------------|
| 問 1. この展示会は、何でお知りになりましたか？ | 問 6. 会場の利便性について |
| 問 2. あなたのご職業、業種について | 問 7. 会場の運営について |
| 問 3. 展示会は参考になりましたか？ | 問 8. ご来場の目的 |
| 問 4. どのブースが参考になりましたか？ | 問 9. 自由意見 |
| 問 5. 出展ブース数について | |

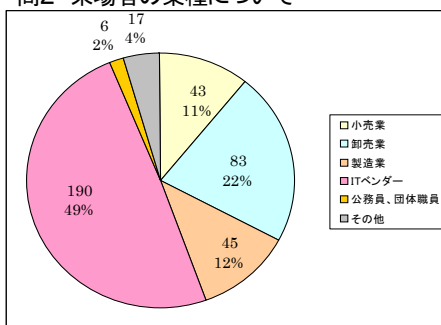
- ・問 1 展示会の開催を、①正会員からの案内、②支援会員からの案内、③協議会からのメールの順で確認いただいている。

問1 この展示会は、何でお知りになりましたか？



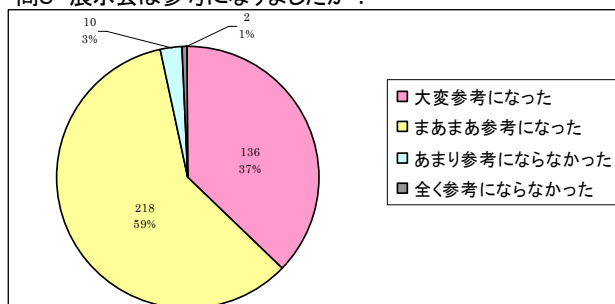
- ・問 2 来場者の内訳 ユーザー企業：45%、IT ベンダー・団体等：55%

問2 来場者の業種について



- ・問 3 「大変参考になった」「まあまあ参考になった」の意見が、来場者の96%を越える。

問3 展示会は参考になりましたか？



【流通 BMS ソリューション EXPO 出展社アンケート】

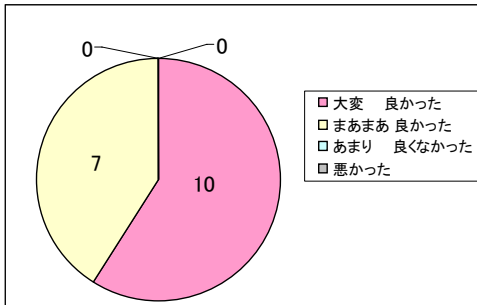
- ・アンケート送付数 24 社(※出展 29 社のうち、共同出展は窓口企業に送付)
- ・アンケート回収数 17 社 (回答率 71%)
- ・回答社名：(株)インターコム、(株)インテック、(株)HBA、(株)エス・エフ・アイ、NTT コミュニケーションズ(株)、キャノン IT ソリューションズ(株)、(株)クライム、(株)サイバーリンクス、セイコープレジジョン(株)、(株)データ・アプリケーション、日本電気(株)、日本ペリサイン(株)、(株)ビット・エイ、富士通エフ・アイ・ピー(株)、ミツイワ(株)、ユーザックシステム(株)、(株)リテイルサイエンス(敬称略/順不同)

■出展社向けアンケート内容

| | |
|-------------------------------|----------------|
| 問 1. EXPO に出展してよかったですか？ | 問 7. 出展企業数について |
| 問 2. どんな点がよかったですか？または悪かったですか？ | 問 8. 開催日数について |
| 問 3. EXPO 会場運営・事務局対応について | 問 9. 開催時期について |
| 問 4. 来年度出展しますか？ | 問 10. 開催場所について |
| 問 5. 出展費用について | 問 11. その他 |
| 問 6. 出展ブースについて | |

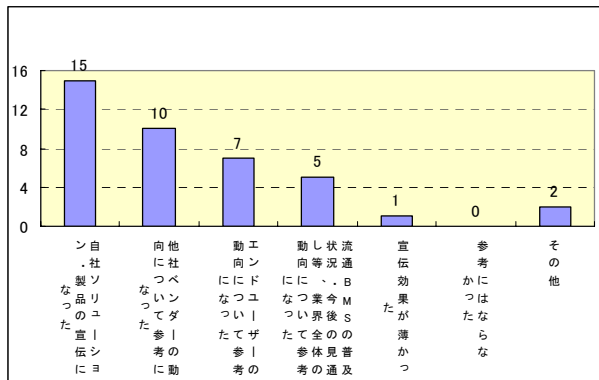
- ・問1 「大変良かった」「まあまあ良かった」が、回答 17 社すべて (100%) 自社ソリューション・製品の宣伝になった、との回答いただいた。

問1 EXPOに出展してよかったですか？



- ・問2 出展内容が明確な展示会であり、集客も多く有意義であるとの意見が多数あった。

問2 どんな点がよかったですか？または悪かったですか？



【事務局より】

- ・2010 年秋、東京地区で流通 BMS フォーラム&ソリューション EXPOを開催致します。(予定)

協議会会員一覧

1. 正会員入会状況 (2010年1月19日現在。47団体)

| | | |
|--------------------|--------------------------|---------------------|
| (財)家電製品協会 | 全日本婦人子供服工業組合連合会 | 日本石鹼洗剤工業会 |
| 酒類加工食品企業間情報システム研究会 | (社)全日本文具協会 | (社)日本セルフ・サービス協会 |
| 情報志向型卸売業研究会 | (社)全日本薬種商協会 | (社)日本専門店協会 |
| 食肉流通標準化システム協議会 | (社)大日本水産会 | 日本チェーンストア協会 |
| (財)食品産業センター | (社)日本アパレル産業協会 | 日本チェーン・ドラッグストア協会 |
| (財)食品流通構造改善促進機構 | (社)日本医薬品卸業連合会 大衆薬卸協議会 | (社)日本ドゥ・イット・ユアセルフ協会 |
| (財)生活用品振興センター | (社)日本衛生材料工業連合会 | 日本歯磨工業会 |
| 全国医薬品小売商業組合連合会 | 日本OTC医薬品協会 | 日本ハム・ソーセージ工業協同組合 |
| 全国卸売酒販組合中央会 | (社)日本加工食品卸協会 | 日本百貨店協会 |
| 全国菓子卸商業組合連合会 | (社)日本玩具協会 | (社)日本フードサービス協会 |
| 全国化粧品日用品卸連合会 | 日本化粧品工業連合会 | 日本文紙事務器卸団体連合会 |
| 全国青果卸売協同組合連合会 | 日本GCI推進協議会 | (社)日本ボランティア・チェーン協会 |
| (社)全国中央市場水産卸協会 | 有限責任中間法人 日本出版インフラセンター | (社)日本レコード協会 |
| (社)全国中央市場青果卸売協会 | 日本スーパーマーケット協会 | (社)日本ロジスティクスシステム協会 |
| 全日本菓子協会 | (社)日本スポーツ用品工業協会 | 協同組合 ハウネット |
| 全日本履物団体協議会 | 日本生活協同組合連合会 | |

2. 支援会員入会状況 (2010年1月19日現在。122社) (社名50音順)

| | | | |
|-------------------------|--------------------|-----------------------|------------------------|
| (株)アイシーエス | オフィスナヤマ | (株)データ・アプリケーション | (株)フィンチジャパン |
| (株)アイティフォー | カストプラス(株) | テクトラシステム | 富士セロックス(株) |
| (株)ITビジョナリー | カンダホールディングス(株) | (株)デジタルコンセプト | 富士ソフト(株) |
| (株)アイネット | キャンノンITソリューションズ(株) | (株)デジタルデザイン | 富士通(株) |
| (株)アグリコミュニケーションズ | (株)クライム | 鉄道情報システム(株) | 富士通エフ・アイ・ピー(株) |
| (株)あじよ | K・ビジネスサポート(株) | (株)寺岡システム | (株)富士通システムソリューションズ |
| (株)イーウェーブ | (株)コスモコンピュータシステムズ | (株)寺岡精工 | (株)富士通総研 |
| イーサポートリンク(株) | 小林クリエイティブ(株) | 東芝テック(株) | (株)富士通中部システムズ |
| (株)イーネット | (株)コムアソート | 西日本オフィスメーション(株) | フューチャーアーキテクト(株) |
| (株)イシダ | (株)サイバーリンクス | 日経メディアマーケティング(株) | (株)プラス |
| 伊藤忠テクノソリューションズ(株) | (株)さくらケーシーエス | (株)ニッセイコム | (株)プラネット |
| (株)インターコム | (株)サトー | 日本アイ・ピー・エム(株) | (株)フリーポート |
| (株)インテジ | (株)サンレックス | 日本アドバンスリーダーズソフトウェア(株) | (株)ヘリオス |
| (株)インテック | (株)CSKシステムズ | 日本経済新聞社 | 北陸コンピュータ・サービス(株) |
| (株)インフォマート | GMOグローバルサイン(株) | 日本事務器(株) | ホンダロジコム(株) |
| (株)インフォメーションプロセッシングリサーチ | (株)ジェイ・エス・エス | 日本情報通信(株) | ミツイワ(株) |
| ウインキュラム ジャパン(株) | (株)JSOL | 日本電気(株) | 三菱電機インフォメーションテクノロジー(株) |
| ウルシステムズ(株) | (株)システム・トラスト | 日本ビューレット・ハッカート(株) | 三菱電機インフォメーションシステムズ(株) |
| (株)エイ・アイ・エス | シャープシステムプロダクト(株) | 日本ベリサイン(株) | ユーザックシステム(株) |
| (株)HBA | ㈱ジャパンインフォレックス | 日本ユニス(株) | (株)U-Think |
| (株)エス・エフ・アイ | 住商情報システム(株) | 日本ラッド情報サービス(株) | (株)ユーフット |
| (株)SJC | 住友セメントシステム開発(株) | (株)ニュートラル | (株)ユニックス |
| (株)S-Parts | セイコープレジジョン(株) | (株)ネクステージコンサルティング | ユニバーサルフード(株) |
| エヌアイシー・インフォトレート(株) | 創玄塾 | (株)野村総合研究所 | ライトシステムコンサルタント(株) |
| (株)NEC情報システムズ | ソラン(株) | パワーワークス(株) | (株)ラック |
| NECパーソナルプロダクツ(株) | 大興電子通信(株) | (株)日立情報システムズ | (株)リテイルサイエンス |
| エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株) | (株)大洋システムテクノロジー | (株)日立製作所 | (株)リンネット |
| エヌ・ティ・ティ・コムウェア(株) | (株)外ラー | 日立ビジネスソリューション(株) | ロジ共働促進(株) |
| 大阪市中央卸売市場 | TIS(株) | (株)ビット・エイ | (株)ワイ・ティ・シー |
| 大阪商工会議所 | (株)DTS | (株)ひむか流通ネットワーク | |
| 沖縄流通VAN(株) | (株)TKC | (株)ファイネット | |

